

農業情報(8月)

農作業時は、こまめな休憩・水分補給をして熱中症にならないように気を付けましょう。

また、これからの時期は台風により農作物や、ハウス施設などへの被害が懸念されます。事前に大雨や強風などへの対策を実施しましょう。作業時の安全確保に十分配慮して農作業事故防止に努めましょう。

■果樹

・もも

収穫は地色の抜け、果肉硬度など総合的に判断して行いましょう。果実温度が高い日中に収穫すると、軟化が早く日持ちが短くなるため、収穫はできるだけ果実温度が低い早朝に行いましょう。

また、樹勢や着果部位により熟度が異なることから、熟度の進んだものから収穫しましょう。樹勢の弱い樹では上枝や樹冠外側、徒長枝・長果枝に着果させた果実で熟度が進みやすい傾向にあります。

出荷の際は、腐敗果、扁平果(ひどい核割れ果)が混入しないよう選果をしっかりと行いましょう。

・りんご

「つがる」などの収穫前落果が発生する早生種では、落果防止剤を散布します。

また、「つがる」は、直射日光による日焼け果が発生しやすいため、葉摘みは着色がある程度進んでから、果実に密着している果そう葉を主体に摘み取り、摘み過ぎないように注意しましょう。

近年、収穫前～収穫期の高温により着色が進まず、収穫遅れになる場合が見られます。収穫は着色ではなく地色の抜けを確認しながら進めましょう。

【落果防止剤について】

散布時期	薬剤名	倍数	散布量(10a)
収穫開始予定日 約25日前	ストップール液剤	1,000倍	450~600ℓ

追加散布を要する場合は、10日程度後に1回散布。
(収穫開始予定日の25~7日前まで2回以内、ただし2回散布の場合は10日程度間隔を空ける。)

今年も平年より気温が高くなると予想されます。着色を待って、もぎ遅れないよう、果肉硬度を重視して適期収穫をしましょう！

■米づくり～出穂期以降の管理～

昨年度は、記録的な高温や少雨の影響で一等米比率が極端に下がりました。長期予報によると、今年も気温が高くなると予想されています。きめ細やかな水管理で品質低下を防ぎましょう！また、秋の収穫期に備えて、適期に刈取りできるよう、コンバインなどの整備点検を早めに行いましょう。

・出穂期～穂揃期

稲が最も水を必要とする時期であるため、湛水状態(水深 2～5 cm)で管理しましょう。

・穂揃期後

土壌に酸素と水分を供給するため、湛水期間を短くした間断かん水(2 日湛水 + 2 日落水)に切り替えます。低温や台風、フェーン現象による高温・強風が予想される場合は、湛水して稲体を保護しましょう。

・出穂後

出穂後 6～10 日頃の高温が「胴割粒」の発生に最も影響するため、高温が続く場合は、日中湛水、夜間落水により稲株周辺の地温や気温(特に夜間の温度)を下げ、稲体の消耗を抑えます。

・落水時期

玄米を充実させるため、完全落水は出穂 30 日後以降に行いましょう。

高温時の注意点

出穂後、高温が続くと「白未熟粒」「胴割粒」が発生し品質の低下が懸念されます。こまめな水管理によるイネ群落内の温度の低下に努めましょう！